參觀者で賑ふ 町民余技綜合展

カルタ會も熱戰くり廣ぐ

春の足音がひそやかにしのびよる一月十六日、十七日兩日待望の町民趣味と餘技の綜合展が役場二階で開かれた。

今年は會場の配置もすつきりとして落着いた雰囲気であり、出品作品も書、日本画、洋画、活花、寫眞、彫刻と俳句等で見ごたいある作品が集り、參觀者も會場を行きつ戻りつ何回も見ているようであつた。只、雪の作品の少なかつたため會場に一抹の淋しさはあつたが、日本画洋画に於ても賛助出品等あり、來年の盛會が豫想せられるが、関係者は來年こそ多方面に呼びかけて更に充実した展覽會の開催を期している。

◈カルタ會

同時に十七日催されたカルタ會も非常に急の催で充分宣傳も行き届かなかつたのであるが、十五、六名の參加者と十數名の參觀者を交いて會場は狭くさえ感ぜられ、懐しいよみ声で技倆を斗かわせ四時終了したが、流石にヴェテラン加茂井氏、鈴木氏、薄田氏、それに小池氏の腕さばきは壓倒的でそれに伍して何等遜色を見せず、万丈の氣をはいた。女性群の小林さん、小沢さんの電光的な早さが注目された。

文藝

短歌

雪　福原　夏子

汽車の音何時しか絶えて背白く月の影さす樺内をゆく

紙芝居何時しか果てゝあめの棒ちらばる上を雪降り初む

雪解道　花岡　增男

雪解の道に靴跡深くして水たゝへをり冷たく光る

雨あとの白くけぶれる川ぞえの杉の木立の黒々と見ゆ

雜　詠　川口　信夫

一万円かけし背廣を五千円と言へば大事に磨れと父言ふ

野をてらす月の光りに墓建ての親僕ひらいて金をたしかむ

冬　小林　光一

白々しくよそほえし心しづめ居り曇き茶房の棕櫚のかたえに

対岸の曲り角よりヘッドライトの照らす川面に雪吸はれゆく

○　内藤　松美

今にして夢に似かよう幸あるか齢へだてゝ待たんとするも

初雪の降りくる窓に立ち寄りて親しく答へて見たき思ひよ

凧　宮島　敏男

幾日も煙を吐かぬ煙突が聳えをり白き凧の中

凧は暗く鳴りつゝ曉の凍て著き道を俯二人ゆく

暖　冬　東樹　友次

外は雪梢火赤々と燃え盛る老ひたる父と吾れ向ひ居て

間宮海峡埋めしといふ噂きく大寒にまれに地肌を見るよ

心動く　武田　公子

白々と更けゆく町に月冴えて吾が足駄の音みちにひゞきつつ

庭の木の濡れも芽だちを數へけり暮れゆく時の空の明るさ

○　田村　カズ

この年の雪の少なきを言ひ交す老婆の声す凍りし道に

水仙の花をさし終へ傾寄せてためらひもなく清き香をかぐ

冬の光　鶴巻　成二

張りつめし水の下にゐる魚の靄めき鈍し朝の光に

張りつめし氷を割りて金魚鉢を爐の傍に一日置きたり

リヤカー番　戸石　吉三

朝市のリヤカー番をして雪に立つ話上手な隣組のひとゝ

雪殘る耕道を走り先生の後追ふ子らが逆光に入れり

火鉢　和田　勝良

此の部屋はさむければオーバ着たるまゝ座り給へと火鉢寄せくる

良き年を迎ひて與れと獨身のわれにねんごろに便りくるゝ友

○　吉川　修

あきらめは心にあれど欲望とノートに書きて括弧にかこむ

成人の通知書を受けいさゝかの昂ぶり押へ名前書きこむ

冬雜詠　宮島　一夫

母病みて家の仕事の遇るゝを妻いましめて釜の下燃す

電柱の蔭ひと所吹き荒れる雪にひとつの意志あるごとく

○　金子　ヨシノ

おどろきの声をはなちて雪をのけ梅の蕾をわれにさぐらす

深雪によくも蕾をもちたりと梅の小枝をわがさぐりゐる

○　伊丹　末雄

おくつきをめぐりつゝ思ふわが去らば母はさびしからむ雪降る

今日をはそはの母がみ墓に一本の菊そなへをれば雪降り來たる

俳句

○　田中　白朗

夕サイレン工女芹を摘み歸る

寒竹に月さしてかげみな似しよ

○　生野　不二

号泣の兒をかへりみず鯉を賣る

餅喰つた茶椀一杯陽とろとろ

○　矢部　安一路

大年の煤掃く隅の隅までも

戸を開けるたび寒風がぶつ通る

○　鈴木　冬雷

松過ぎの女房とん〳〵漬し豆

松過ぎの家主が見えて貸上る

○　中島　竹風

奇石背に寒竹颯々と子をもてり

芹摘めば落水の響近くあり

○　高木　鐵火

雪椿掌にとりやはらかな匂ひ

雪原や踏めぬ吾が影歩みつゞ

○　木村　白葉

鯉喰つてものたりにや妻いびき

かぐ

冴え返り八方のおとわが耳に

○　木村　平地路

凍てし野やバスは遠くに人みとむ

寒鯉は生簀一まはりして静止

○　丸山　陸一

繃柱に陽の射して來し蟄子眼り

枯枝に明るさつもる牡丹雪

海紅俳句

○　はせや　杉郎

碇ふゆざれし西からむくむくと

歴して來る雲

唐からしの廊の実あかるく正月

のゆふ仮

○　小川　光明樹

川岸の舟が寒月に搖れ酒の欲しい夜

双物削る男の顔煤けて善良晨根

から粒雪が漏る

○　櫻澤　喜作

嫁いでからの女の人の倖せ路の

雪解ける

鯖の肌が金色かろく降つて來る

雪

○　渡邊　欣之助

淡雪降り水晶の漣する水面

いとしさは降る雲に消えん街の

群像

○　中村　青鈞

酒藏悠長に樽叩く寒ンの青空

桶にむき身の牡蠣淡雪の降る

○　中村　乱水

すしりすしり孤獨の餅を搗き雪

の地つづき

あなたの着物の好み水盤の梅ぼ

ちぼち白く

詩　涙傘　眞田千佳子

一つ身に
二つ心を
もつて居た
千佳だつた

一つの身に
二つの心が
治まらなくて
自根を
去りゆく日
千佳の心は
水の様に
寂しかつた

〃さようなら白根
さようなら白根〃
チラチラと
雪ふる中の口堤を
流れにそうて
人の足かなしき

私見

登石　吉三

つい最近菊周さんから、町の同人歌集（大正一三、四刊）の秘藏品を見せて頂き、白根歌壇の萌芽的作品を発見した事は有益だつた。

町の文苑に俳壇の活躍が顯著であるだけに、歌同好の士の少ないのが目立つ折、三十年前の先達の存在を明らかにし得たのは、以てカンフルともなろう。

感銘歌抄　（敬稱略）

○　松澤　秋葉

啄木のいのちさながらわが胸に躍るなおぼゆそのうたよめば

○　小林　眞路

蒼茫と黄昏るゝ街をながめつゝ二階の窓に軍歌をうたふ

來公に出たら手紙のやりとりをひかへるがよいと母のいふなり

○　谷　紐

野をたゞに行きつかるればわが心しばし悲いを忘るゝものか

○　故　佐藤精一

れむられぬ夜なり窓をあけはなち沛の葉越しに照る月を見る

右の作品は、勿論現代短歌觀からすれば、金箔に溢れている當時の思潮には必ずしも満足出來ないが、あながち時代調といへない閃きを藏し、片鱗をあらわし、今もつて芳ばしく高いものがあると思う、詩は不滅なりの感を深めた。

聲の町民

公民館に望む

◈今日までの當町の公民館活動を見てゐるともつと強力に社會教育を押し進められないかと感じない譯にはゆかない。成程、或る分野は非常に啓蒙的、且効果的に活動を続けられる様に思はれるが、その反面有名無実の組織もある様だ。社會教育のもつ意義の重要性を――特に貧困な施設しかない當町にあつて――考へるとき、その活動も自信をもつて町の社會教育のセンターとして動いて頂き度いと感じるのは私だけだろうか。

◈公民館報を発行するにしても時期外れなニュースが一隅に掲載されていたり、それのもつ高い使命と凡そ似つかない取材による文があつたりして、公民館報の意義さへも疑いたくなる。館報は文藝誌やニュース新聞とは違う、又特定の人の同人誌ではない。しかし一昨年あたりの同報と比較して充分成長し讃める程度になつたものゝそれが啓蒙の手段であり、指導の一方法として町予算を割いて發行するのだと云う亦を編集関係者は特に念頭に入れて貰いたい。そして一貫した信念と抱負によつて町民に何らかの示唆を與へて欲しいと思う。そして之が公民館報、否、公民館の使命でわないのだろうかと考えるのである。

◈又、時々催される映画会、これが公民館として町民に見せたい映画なのか。慰安のみ追う映画を上映することはどうか?。でなければ、いつか誰かが本欄で告白していた様なものすごく興味のない、アクビ許り連發させればならぬ場面の連続であつたり――娯樂一本槍も感心出來ないがと云つて、又、教育映画許りであつても困る。「過ぎたるは及ばざるが如し」とか。少し位経費が要つても公民館は品格のある映画を上映して頂きたい。

◈大分苦言ばかり呈して申譯ないが未だ開拓する分野はある。今年こそ教養関係の事業を盛り澤山にやつて頂きたい。　レコードコンサートもよい。討論會も面白いと思う。もつと企畫に時代感覺をもたせ、凡ての人が社會教育の重要性を認識し、早急な効果はなくとも着実に公民館活動を續けてもらいたいと切望する。他町村の設備、職員配置の増員充足を考えるとき、當町では役場の一隅にて経費に悩み設備の不足、職員の不足等々の悪條件はあろう。しかし社會教育の唯一の機関であり、先驅をなすべき機関である事を考えるとき、やるべき仕事が山積されているのではないか。

◉原稿募集

(1)感想、隨筆、短文藝（郷土的な物）
(イ)感想、隨筆は千字内外
(ロ)短歌、俳句、川柳三首三句以内
(ハ)詩は二十行内外
(2)町民の声　五百字内外
(3)原稿は原稿用紙、種別毎に別紙
(4)締　切　四月十日
(5)宛　先　白根町役場公民館係

白根橋 架橋愈々許可さる

…舊泰平橋古材無償交附…

縣より去る十一日許可された白根橋架橋は、巾四、五米長さ六〇米で三ケ月以内着工、八ケ月以内完工の豫定である。これに要する工事費は二五〇万円で現在地元より九十万円の寄附が集り、尚近接町村及び関係會社事業場より大口寄附ある見込みである。

赤ちゃんコンクール

白根代表決る

滿一才の乳兒十六名を集めて行われた赤ちゃんコンクール白根豫選に左の乳兒が代表として選ばれ、郡、縣のコンクールに參加する事になつた。尚縣の代表は全國大會に參加する事になる。

渡邊　誠＝欣一（藥局）長男　体重一〇・四瓩　身長七四糎

布川よし子＝一夫（自動車會社勤務）次女　体重九・八瓩　身長七四糎

◈町民慰安の夕

二月二十三日催された公民館主催の慰安の夕べは、折から雪の悪天候であつたが會場の小学校は滿員の盛況で二時間にわたり映画を通じ楽しい一夕を過し非常に參會者に喜ばれた尚当夜青年同志會で自発的に會場整理跡かたずけ等に率仕されていた。

社會人としての誕生

第二回成人式盛大に挙行

去る一月十五日「成人の日」は當公民館では滿二十才の男女一七〇名、内男七九名、女九一名を招き意義深い成人式を挙行した。

一昔前には素裸になつて徴兵検査が行われ、百数十年前前髪を切り、元服と稱した。そして現実は……。

集い來た成人達の孤には自らの世代を冷厳に批判し、獨立近い日本の將來の爲め、沸々たる覺悟が漲つて居た事は若い世代に大きな期待を抱かせた。

社會人として視野を廣く進んでもらいたい、――若人は自らの力で生き拔かねばなりません、――諸君は人生の第二の誕生日を迎へたのであります、――豊かな教養と時代感覺を身につけて――等々。

公民館副館長、町長、議長、中学校長、署長、青年、婦人會長より力強く勵ます愛の言葉が、なみ入る成人男女の腸裡に刺み込まれて行く、記念品、記念狀の贈呈に引続き成人代表小林陸二君、星野ハルさんの力強い答辞があつた。

斯くして成人の喜びと緊張に胸をとどろかせる男女を前にして、本月の特別講師新大教授植村清二氏は記き來り說き去り、一時間餘に亘り熱誠ある講話を述べられ、深い感銘を與へられた。

郷土色豊かな神樂舞も終りパン、祝膳を手にして成人祭の映画會に移り、お互協力して立派な町造りに手をとり合つて進む事を希求しつゝ七時終了した。

惠まれぬ人々へ…

温い愛の贈り物

＝廿六年度歳末援護＝

今年も生活保護世帯に自力更生の一助として次のような温い同情が各方面よりよせられた。尚町長より全遺家族に対し歳末慰問が行われた。

寄附者氏名	金額
白根町理髪組合	一、〇〇〇円
白根町ルーテル教會	二、八四〇円
白根町中学校職員一同	二、四四六円
白根町保坂小坂子供會	五〇〇円
無名篤志家代理吉川キミ	二、〇〇〇円
計	八、七八六円

（昭和二十七年一月現在八十二世帯に配分）